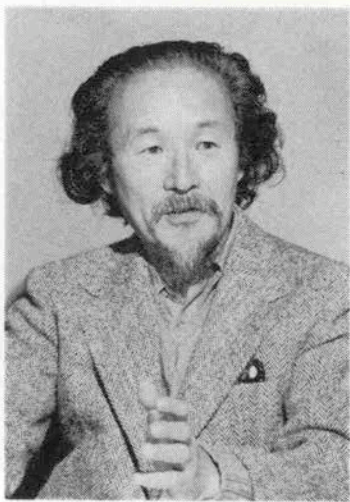


☆私の意見

# 南蛮美術館を 文化の拠点に

中西 勝

〈洋画家〉



以前に南蛮美術館開館当時の奉加帳を見せていただいたことがあるのですが、橋本関雪、石黒敬七、青木一夫、奥村隼人と、数々の先輩諸氏の名前がずいぶんありました。この由緒ある美術館が開館してしまったのはとても残念です。池長孟さんの美術を愛した心を汲んで、この建物を池長記念館という名前で残してほしいものです。神戸に民族資料館、あるいは神戸市史博物館が必要だと思います。神戸市行政だけでなく、民間、あるいは個人でもいいのですが、博物館に収蔵するものを集められた方や、故人の写真や、活動の様子を映画として記録したいものです。先祖の暮らしを知るためにも民族資料館や博物館は必要だと思います。それは単に世代の古さ新しさだけを批判するのではなく、昔の生活様式を知って、古いものを理解していくということですね。

さらに私たち絵描きの立場としては、我々の先輩たちの作品を集めて欲しいですね。もちろん絵画だけでなく、彫刻も、あらゆる芸術的な分野の資料も収めて欲しいですね。神戸は文化不毛の地といわれるけれど、各方面で活躍している方はかなり多くいます。芸術・文化の分野での層を厚くしていくこと、格調の高いものを追いかけるばかりでなく芸術の幅を広げていくことが必要でしょう。

南蛮美術館は気軽に市民が利用でき、かつ常に新しい企画をしている施設にして欲しいものです。県や市などの行政だけでなく、市民も一体となってアイデアを出し経済的にも充実させていくべきです。池長記念館として残しながら、そこにいろんな計画をして、新しい形にすべきです。行政面では限度があるでしょうし、民間ベースでできればいいですね。

神戸市民芸術文化推進会議なども協力し、慈母のようなエネルギーをもった研究所となって欲しいですね。美しさが慈母のごとくあふれる、行動のある文化研究所、というところですね。

50名様50万円でご披露宴を

# Summer Wedding

7/1 ☆ 8/31

二人の喜ば  
プレゼント  
(新婚付)

上記金額には料理・飲物・卓上花・メニュー・ウェディング  
ケーキ・会場費・挙式料・お茶室・両家控室・招待状・ピアノ  
演奏・花束・ブーケ・席札  
筆耕・芳名録・色紙・税  
金・サービス料が含ま  
れます。追加一名  
様10,000円いた  
だきます。



★ご披露宴料理  
(和洋中・各料理)  
1割引

★衣裳・美容・着付 2割引

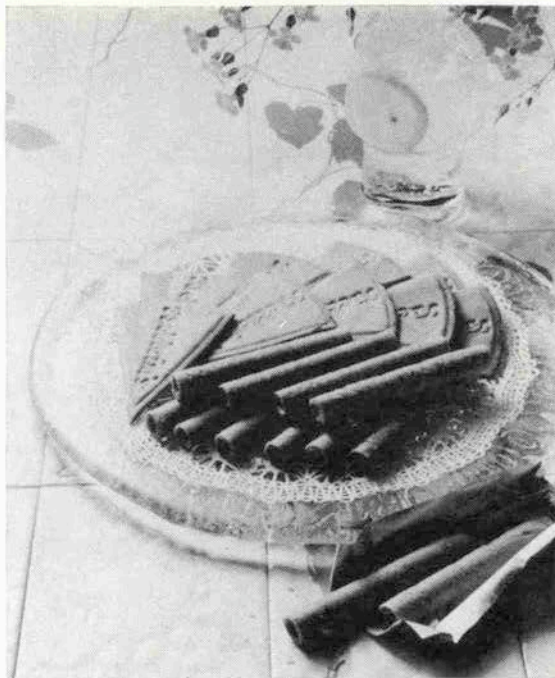
★写真・ビデオ撮影 1割5分引

★ウェディングケーキ・挙式費 5割引

詳しくは宴会予約係にご相談くださいませ

## オリエンタルホテル

神戸市中央区京町25 ☎078-331-8111



### リゾートの風さわやかに



ユ・ハイム

## 随想



カット/犬童 微

### 日本を去るに あたって

ビリー・ウォーカー

AC・H・I・C所長

CHICとはコミュニティ・ハウス・アンド・インフォメーション・センターの略で、日本に初め

ビリー・ウォーカーさん

て来た外国人の方々に、はやく日本の生活に慣れてもらおうと、日本語や日本の習慣、生活情報などを知らせる活動をしている在神外国人によるボランティアグループです。コミュニティハウスは人々がともに考え、ともに責任をもって支援を求めれば、その支援が与えられるということを自ら実証したグループです。

神戸に住んでいる外国人を見てみると、一見無力な行動力のない人間には見えません。ところが本国を離れて神戸にまいりますと、外国人は無力で心細い気持になるのです。本国では大学出の経歴ある立派な一人前の人間であつても、異国へ来た途端に無力で頼りない人間になってしまうのです。

一人歩きをしようと思つて、看板や案内を読もうとすると何も分からない赤ん坊になった気分が致します。ローマ字の案内はわずかしかなりません。国際的な港町である神戸市、その市役所の方々は前からそれを御存知なのに改善されないのは何故かしらと考えざるを得ません。

一九七六年に英語を話す外国人ばかりが集まつて、神戸でアメリカ式のタウンミーティングが開かれました。神戸にすむ外国人にとつて何が必要かと検討した結果、英語でかかれた雑誌と外国人のための案内書が二大要求であることがわかりました。やがてカンサイタイムアウトとコミュニティ・ハウス・アンド・インフォメーション・センターが神戸に誕生した次第です。本国から駐在員を送つてきている企業から経済的援助をうけ、日本の官庁や市民団体の支持もあつて、両者とも順調に成長してまいりました。双方ともボランティア制がその基盤となつていきます。人々が心から求めて支援したからこそ存続できたのです。

ボランティア制度はまだ日本ではよく知られていないようです。ボランティアとしてする仕事は、第三者から命令されたとか、勤めだからという意識でする仕事ではありません。ボランティアがお金

を受けとる場合もありますが、それはその職場で重要な技能の一つとして認められた結果なのです。ポランテアとして有意義な活躍をしようと思えば、それにふさわしい訓練やプロ意識も必要なのはもちろんです。

コミュニティハウスにポランテアとして出入りする外国人は積極的になり、いい経験ができるようです。情報が豊かになり、身につけた日本語や生活習慣をいかし新来の人に手をさしのべて、相互に助けあっています。外国人としての無力さを克服して、与えられた環境の中でせいっぱい生きていくことを学ぶことができます。

神戸を去るにあたり、私は感謝の気持ちでいっぱいです。日本の皆さまに色々教えていただいたおかげで人間的に大きく成長することができたと思います。またお互いに同じ「人間」という一つの絆で結ばれているということをもっと知ったのは本当にすばらしいことでした。

## シャンソン

### ぶらりツアー

堀 郁子

△シャンソン歌手／エ・トワヴ

「堀郁子と共に」のヨーロッパツアーも今度で幾度行った事か、そ



スペインの美術館にて

の都度、新しい何かを発見して喜んでいる私。

今回は情熱の国スペイン、アンドルシア地方へ初めて行く。

マドリッドの王宮、ブラド美術館、セビリアのヒラルダ大寺院、コルドバのメスキータ、そしてグラナダのアルハンブラ宮殿。

あらためて歴史の重みを知る。石の文化がここにある。

アルハンブラ宮殿の特色としてまず水、石、そして彫刻。私はその宮殿に憧れを持ち続けていた。

期待は裏切られる事なく、何千年か昔のハレムがある。私達は、王様、王子、美女等、それぞれの役になり楽しむ。

地中海のエビ、貝は日本のと一味違って美味。やはりオリブ油故か。

そして、有名なフラメンコはグラナダで観た。15歳のジブシーの少女が素晴らしい。物につかれた様に踊る姿を目の前にして、私もドラマチックなシャンソンを唄っている時の自分をふと想像する。時間が欲しい。あの闘牛を見る事ができず、ただそれだけが心残り、次の目的地のバリへフライト。

さあ、パリだ。ここには友人がいる。安心して、のびのびと遊べる。この街にも慣れて、ツアーの人達、全員好きに自由行動。私は目を輝かせてウインドウ・ショッピング。ステージで着てみたいドレスの布地はないかな?と。案内役は二人。それも素敵な男性。どうだ?とばかり石だたみに行く。夜、シャンソン歌手のパタシエーの唄を聞き、モンマルトルのキユイジヌという店で、ギターの弾き語りをしている男性の歌手の「枯葉」に、つい酔い心地もまさって歌手としての心が目を開き、ハミングしてしまい、そのままステージへ。そして彼のギター伴奏でフランス語で歌い、大拍手を頂き(申し訳ない)、イル・ド・フランスなどのレストランでワインと共に夜を過ごす。

あつという間の十日間。

今はもう日本に帰りたい。故郷神戸へ。

## 陶禅一如を

めざして

村田陶石（旧姓藤田）

△妙徳寺住職▽

一、窯焚きは臘八大接心だ

終戦後旧満州から復員をして早速、八幡の巴福僧堂、泥龍窟井沢寛州老大師の門をたたいて参禅辨道、禅修行をさせていただいた。巴福僧堂は当時臨濟宗でも、山作務の厳しい鬼僧林といわれ、大衆も戦後復員した青年僧で、三・四十名も在錫していただろう。初めて体験した臘八大接心、一週間前に寝具をとり上げられる。釈尊の尼蓮禪河、菩提樹下で坐を組まれ、暁の明星を見て大悟徹底なされた故事により、四六時中、座禅を集中して大修業をする期間である。その厳しさは言葉にならない。然し今思えば良い修業をさしてもらった。窯の焼成もちょうど臘八大接心と同じである。禅堂は



陶と生花と書と

静中の禅、窯は動中の禅だ。土作りにはじまって、土もみ、成形、いいものだけを残して約三カ月、一連の作品ができる。窯は桃山期以前の穴である。私の窯は桃山期以前の穴窯で、一番高いところでも約一米、腹這いの様な姿勢で重い作品を入れる。この窯話によって炎の通り

が左右されるので全く入念な、過去のデーターを参考にして神経を使う。一週間程でこの作業が終ると、舞鶴湾の満潮の時間にあわせて火をつける。一心に般若心経を唱え、経を読む自分と、火を焚く自分を一体とした精神統一、雑念を払い、只ひたすら火禪の工夫一本である。四、五日経つと赤い炎が、もうもうと立ちこめる煙の中にみえてくる。この炎が桃白色にならねば灰はとけない。この辺が窯の山場である。この頃になると薪木の量もウンと増える。十分間に約四、五十本、またたく間に燃えつきる。又くべる。いわゆる「攻め焚き」で一番大事な性根場（しょうねば）で、窯場全体に緊張感がみなぎり、皆の顔が血走ってくる。格闘約十時間、よい炎が立ちこめてきた。疲労の中の陶酔、禅悦の境である。ちょうど老師よりいただいた公案が通り小悟でも、ややわかった様な気がする一しゆんだ。悪

戦苦闘の五日間を終えた気分は、巴福の楼門前の大薪火に、シリあ

ぶりと同じ心境となる。億年の土味を引出せたか、火仏の加護を満身にうけた作品となるだろうか、やるだけの事は限りを尽したので後は祈りのみである。

二、三ツ児の魂が芽生えた

私は少年の頃から書に興味を持ち、一生、書作家として送る様、毎日今まで約四十年間筆を手にしない日がない、それが何故か、何時の間にか土をいじる様になったのか不思議な気がする。私は、十才の時、須磨区妙法寺のお寺に小僧に入った。時の住職加門得浄師（現住・加門得勇師の父君）によって得度した。得浄師は今思っても活動家であるような宗教活動をなさっていたが、最も印象にあるのは、その頃素焼き窯で薪木を燃し虎の型焼をされ、それに彩色、お寺のおみやげとして善男善女に与えられていた。幼い私は真夜中に窯から立ちのぼる炎をみて、子供心に「あ、きれいだなあー」と思ったものである。この記憶が何時しか陶芸の道に引っぱり込んだのだろうか、神戸の加納町で生れた没落酒屋の枠が今は丹波の禅宗坊主として窯くれの毎日、三の宮「そごう」さんの好意で個展が開かれたのも何か宿世の因縁のような気がする。

# COOKIES

クッキー

オレンジ・カシユナツツ……

など14種からなる風味豊かなソフトタッチの

ハンドメイク・クッキーです。

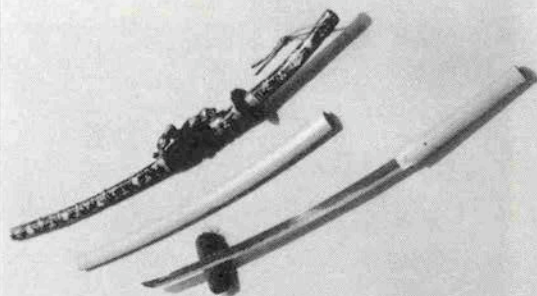


北 欧 の 銘 菓

ユーハイム・コンフェクト

■本社・工場・鶴内店 神戸市中央区鶴内町1-8(南蛮美術館東隣) TEL221-1164

# 刀剣 古美術



七宝略太刀拵つき

銘 / 備前長船佐々木久三郎

源重行作

長さ2尺2寸9分半・特別貴重認定書付

特別提供価額¥12,000,000

毎月20日 無料鑑定

研磨、白サヤ、その他工作

お支払いに便利なローンをご利用下さい。

兵庫県美術刀剣商組合事務局

刀剣の **元 所 美 術**

神戸市中央区元町通6丁目6番3号

三越百貨店東へ150m 商店街山側

TEL 078-351-0081

ある集い・その足あと

# 恵比須太鼓

坂田祝一〈恵比須太鼓保存会副会長〉

私等の住んでいる町は、神戸市中央区の一番西にあり、戦前は造船の町として非常に活気があった町です。あの大战で町の大半が被災に会い、昔の面影はすっかりなくなりました。私等の子供の頃、大変に賑った町の鎮守で、昔平清盛が福原遷都の際勅進したと伝えられている七弁天七恵比須の一つで、祭神は蛭子命を祭っている蛭子神社。その奉讃会の故小田富太郎が、なんとかもう一度昔の賑いを取り戻すため、何か良い方法がないかと色々思案の末、一つ当神社にも祭に欠く事のできぬ太鼓が良いだろうということになりました。そこで福井県より「火の太鼓」の一行を奉納演芸としてお招



東川崎町の蛭子神社での練習風景

きし、その演技を目の前にして、素晴らしいさに魅せられたのです。

石川県より太鼓を購入し、早速子供達を集めて練習を始めたのは昭和四十五年です。が、困ったことに教える人が居りません。なんとかならないかと現会長加藤喜賀志さんと相談したところ、故郷の福井県東尋坊太鼓で太鼓の指導をしている下村圭一さんが良いだろうということになりました。ところが連絡してみるともう高齢のため遠いところへ行くことは出来ないのご返事です。でも当方の熱意が通じ、毎月三日間だけ神戸へ指導にきて頂くことになり、先生の型を映画に撮り練習に入りました。

昭和四十六年、初めて神戸まつり生田パレードに参加。翌年、太鼓も五つに増し、名実共に東川崎恵比須太鼓として神戸まつりにも出場するようになり神戸の皆様にもや々と名前を知られるようになりました。五十年には下村先生のお世話で、第一回福井研修旅行を行い、福井県立希望が丘老人ホーム等の慰問を行いました。夜は三國浜に太鼓を持ち出し、自動車のライトの灯りで練習に励みました。又、五十二年に福井織田町剣神社の「明神ばやし」の子供会との交歓会。五十四年は、勝山「左

義長ばやし」の皆さんとの勉強会や、丸岡町霞太鼓子供会と、丸岡町長のお世話で町公会堂で盛大なる交歓会を行いました。昨年は、神戸博のため、福井霞太鼓の親太鼓孫太鼓五十五名の方々が来神され、私等保存会も総力を挙げて歓迎会を開きました。中央区長を初め、福井県人会の役員の方や、市議の先生、町内の各種団体の代表者の出席をお願いし、楽しい一夜を持つことが出来ました。

今年、私たちが福井県へ、第四回研修旅行を行う予定になっており、子供たちも首を長くしてその日のくるのを待っております。うれしいことには、昨年より小学校においても、音楽教育に太鼓を取り入れて全校生が叩くようになりました。太鼓の代わりに、PTAの皆様方のご協力により、竹ドラム缶、樽等を集め「恵比須リズムム」として、運動会で披露されました。

現在保存会として、演奏出来る曲は、恵比須太鼓、合わせ太鼓、渡太鼓、打ち込み太鼓等、安田隆さん指導のもと、練習しております。悩みは、中学生になりますと勉強やクラブ活動のため、練習にこなくなることです。しかし地区の子供達が、少しでも太鼓に親しくんでくれるのを喜び、楽しい思い出として、心のすみに残ってくればよいと思っております。今迄私たちが育ててきた小さい芽が、やがては大木になることを願って頑張っ

●れんさいエッセイ●ペンのうちそと●一

# 「テホンハ、ニノミヤヤ…」

三枝和子

作家

え・元永 定正

向う一年間、主として関西で暮します、とある席で喋ったら、その場に「神戸っ子」の編集のひとがいて、早速、このエッセイの係のひとに話したのかしら、折返し、みたいな素早さで連載を依頼され、サスガァー、とこちらもそのタイミングの良さに思わずノッて、すでに、このとお書き始めていたのである。

これまで私は、小説の大部分を東京の仕事場で書いて来た。それがこの三月半ば過ぎから、当分のあいだ仕事の都合で関西に居ります、と留守番電話に吹きこんだ。雑誌「新潮」に昨年から「黒田庄駅・夏」「杉原谷川・秋」と半年毎くらいに発表して来た九十枚くらいの短篇を、あと、「冬」「春」と書きついで連作として完成させなければならぬ。題名からお分りのように、北播地方を舞台にしている。「冬」「春」は氷上郡から丹波篠山方面を場所を選びたい。

加えてもう一つ、これは大きな仕事で一人の女の出生から死までを、やはり北播地方をモデルにした架空の村を背景に描きたい。女の生きかたに力点があるのではなく、風土にアクセントをおき、風土がその女を生み出すふうに描きたい、と思っている。こちらは、すでに第一部四百枚―少女時

代、初潮までを書き了えているので、この一年間で、第二部、第三部として、あと八百枚くらいを仕上げなければならないと考えている。そのためには、東京の仕事場で書くよりは、関西の田舎に居る方が良いのではないか。

と、こんなふうにならうと大変カッコよく聞こえるが、実際のところは本末顛倒していて、一年間、どうしても田舎で暮さなければならぬ事情があるので、したがって、「村」を題材にしている作品をこの時期に集中して仕上げようというコンタに他ならない。

事情というのは、前にこの場所で書いたことがあるので御存知の方もあろうが、私の家は山上の寺で新西国二十八番の札所である。この札所の当番が四年に一度回って来て、今年の四月から来年三月まで私方で担当することになっている。

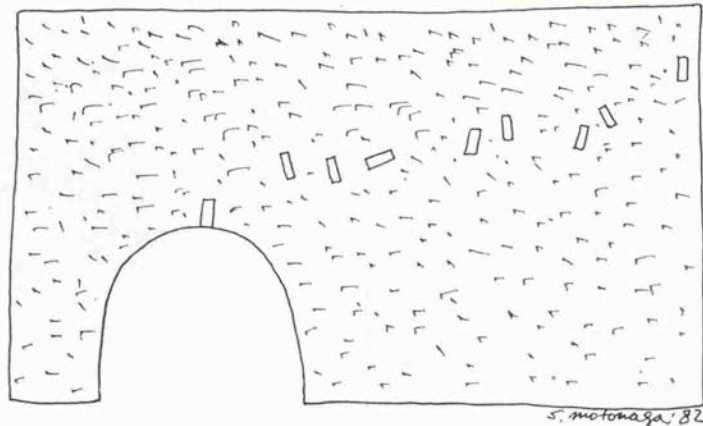
札所の当番になると、自坊だけでなく、本堂や広い境内全体の掃除をしなければならぬ。もっともこれはお手伝いさんに三分の二くらい、こなしてもらえが、問題は集印帳である。参詣の方に納経のしるしを書いて朱印を捺してあげねばならない。これが毛筆なので、住職が不在のときは私が代理で勤める。丁度タバコ屋の店番よろしく（仏様とタバコを一緒にして申しわけないが）い



つでも応待に出なければならぬ。

つまり原稿書きながらの店番である。土曜や休祭日は別にして、ウィーク・デイは一日、二、三人という日もあるので、原稿書きながら結構動まのだけれど、それでもベルが鳴る度に飛び出して行かねばならないので気が散って仕方ない。昼間が駄目であれば夜という方法もあるが、これは朝が早いので不可能だ。

しかし贅沢は言っていられない、と二宮金次郎じゃないけれど（古いねえ、例え話が）お掃除洗濯、小説づくり、寺の手助け、亭主を世話し、と修身の手本みたいな毎日である。もっとも、こん



な感心な生活も、四年に一度だから我慢できるのであって、女は損だなあ、とぶつぶつボヤキながらも、何とかしのいでいる。

女は——というより結婚して仕事を持っている女は、というべきか。こうした場合、いつも男のひとは違う二者択一をせまられる。つまり、お定りの仕事と結婚生活の両立の難しさである。この点、形態の差はそれぞれあっても、女としての苦しさは同じで、誰もが大人なり小なり二宮金次郎の生活にならざるを得ない。

かと言って、女が結婚生活、家事労働の生活だけに踏み切ってしまうのもつまらなく、一方、仕事だけに集中するのも、男と同じ条件でつくられるものの味気なさがある、小説の場合、特にそれが出て来ると思う。

テホンハ、ニノミヤキンジロー——の節で、オンナハ、ニノミヤキンジロー、と心のなかで喚きながら書く小説には、それなりの意味がある、と自負している次第である。

ただ、私もこの頃、年とって来たせい、か、四年前、八年前、さらに十二年前の、この当番のときとくらべて、喚き方もずんと穏やかになり、短い一年を（昔は、ひどく長い一年と感じたものであるが）せめて自然と深くつきあって暮そうと思いはじめたのである。

暇を見て、飼猫たちと光のなかで戯れたり、裏藪に餌をおいてやっている、一日中境内を飛び交っている実にはさまざまな鳥たちを眺めたり。時折は、そんな山里の便りもこの欄に送り届けたいと願っているこの頃である。



□トランペット片手にブラジル一人歩き△9▽

## サンパウロの レプブリカの想い出

右近 雅夫

△在ブラジル・サンパウロ／絵も▽

「レプブリカ」といえばポルトガル語では共和国のことだが、ここで今から述べようとする「レプブリカ」は、いわゆる女子大生の学生寮のことを意味する。ブラジル人は独立心が強いのか、男女を問わず大学に通う年令ともなれば、自分で働いて学資を稼ぎながら勉強する習慣がある。地方からサンパウロへ勉強に来ている女子大生達も、昼間は学校の教師等をしながら夜学に通っている場合が多い。彼女等は市内に一軒の家を借り、数人から十数人のグループで共同生活をし、全てが自治制なのでレプブリカというのであろう。もちろん、普段は男性は戸口から中に入れないことになっているのだが、僕は独身の頃レプブリカの住人達と親しくなってしまう毎週のように遊びに行っていたものだ。

当時アミゴになったギターの名手のエドワルド・ラモスは、サンパウロの海洋学研究所に勤務していた学者だが、僕がサンパウロのレプブリカの存在を知ったのも、彼に連れられてあるレプブリカのフェスタに行った時のことであった。それはアピリオ・ソアレス街に面した古めかしい

二階建の家で、天井の高い客間や中庭には当夜の招待客の男女が大勢集ってガヤガヤ話していた。

エドワルドはこの住人の家族を次々僕に紹介してくれた。長身で黒髪のマノールは、そのレプブリカの主領格でアラブ系、幼稚園を経営していた。青い眼で金髪のナンシーは、州立のモデル・スクールの絵画の教師で、僕がマジック・インクの工場をやっていることを話すと、教材に取り入れてくれ、創業当初で苦境にあった町工場にとっては大変有難かった。母親が白系ロシアだというレジーナは、サンパウロ州でも一番日系人口の多いモジ・ダス・クルーゼスという町の出身で、まだ若いのに州政府の身体障害児社会福祉施設のディレクターの要職に就いていた。彼女はここにしながら「アナタ、ニホンジンデスカ?」「コンバンワ、ドージョロシク……」得意気に日本語で話しかけてきた。そこまでは良かったのだが、とても日本語が上手だとお世辞をいうと、頭を押さえてしばらく考え込んでいた彼女は「アナタワケサ、ウンコシマシタカ?」と突拍子もないことをいい出した。日本語の挨拶だとモジの二世に教

えてもらって、意味も解らないまま棒暗記していたのでとんだ失敗をし出かしたらしいが、随分いたずらなことをする二世もいたものだ。

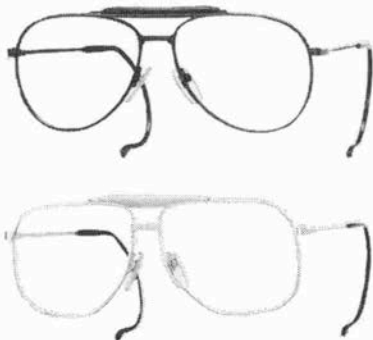
レジナはその夜のフェスタにやや年配のアメリカ人のボーイ・フレンドを連れて来た。「アーサー」というのが本名だが、アルツールとブラジル風と呼んで欲しい……」と来伯僅か三カ月というのに流暢なポルトガル語で話しかけてきた。一昔前まではアメリカ人は何処へ行っても英語で通そうとするくせがあり、英語の通じない南米では反感を抱かれた原因のひとつのようであった。ケネディ政権以後にブラジルにやって来るアメリカ人は、不思議なことに以前のイメージと取って替ったように、上手にポルトガル語を話し、進んでブラジル人の社会に溶け込もうとしていることがうかがえられる。アルツールはその時、北米系の企業の社長としてサンパウロへ就任してきたのだが、渡伯前にポルトガル語を勉強してきたそうだ。この点は日本の商社マン達も大いに見習うべきだと思う。



次から次へと出されるピッツアを食べ、セルヴェージャ(ブラジル語でビールのこと)を飲んでみると、チリー人のルッチンがやって来た。早速彼のピアノとエドワルドのギターの伴奏で僕はトランペットを吹き出した。僕等は女の子達の注文に応じて、ジャズ、サンバ、サンバカンソン、ボレロと何でも即興で演奏した。カルナヴァルの曲を鳴らし出すと、皆熱狂して、大声を張り上げて歌いながら、ピョンピョンはねるようにして踊り出した。やがて夜も更け、皆疲れ果てた頃、チリーやペルーの民謡をルッチンがピアノで弾き出した。いずれも今まで聞いたこともない哀調を帯びた曲である。彼はチリー南部の出で、母親と死別し父が再婚したので、サンパウロへ一人でやって来て間もない頃知り合った。当時のサンパウロは音楽だけで生活して行くのには難かしかつたので彼はセールスマンのような仕事をしていた。若いのに栄養失調らしく、青白い顔をして何時も空腹そうだったので、僕は彼に会うたびにレストランや家に連れて帰っては母の手作りの御飯を食べさせることにしていた。それから二十年の月日が経ったある日、ルッチンは夫婦で僕等親子三人を夕食に招待するんだと聞いて、買ったばかりの新車で迎えにやって来た。ナイトクラブでピアノを弾くだけで良い収入が得られるようになったからだ、本当に微笑ましいことだ。

# SPORTS FRAME

プロが選んだ  
汗と動きに強いスポーツ仕様



本格的にスポーツと取り組む人のハードなスポーツタイプ。フレームをしっかり固定するスポーツケーブル、汗止めの機能をもったスエットバー、メガネを忘れてスポーツに専念できます

## 神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表  
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

耳のよきパートナー

### 補聴器オーディオルーム

専門コンサルタント担当

- 防音室で聴力測定・補聴器微調整
- 耳穴にフィットする耳栓型取り

※補聴器は元町店で取り扱っています。

こんにちは赤ちゃん



原 健太くん / 西宮市段上町

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

## 芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柵町1番18号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

地域文化は建築づくりから！

「甲南こもん」を計画して

嶋田勝次△神戸大学建築学助教授▽

兵庫県の健康増進センターと灘神戸生協の生活文化センターが、この春完成した。住吉川左岸、国

鉄と二国に挟まれたグラウンドであった敷地を共有するように、東と西に広場を囲んで建設されている。この二つの建物の基本設計を担当した当初から、都市環境に新しい息吹きを持ち込むことをイメージし、共通の外部空間をもった街のオアシスとなり、明るい神戸らしいデザインが背山にも映えることを思い、更に長い生命をもって美しく愛されることを念願していた。そして地域における健康増



甲南こもん完成模型図

進と生活文化の活動の拠点となることを目指しているのである。

この計画の意図がどこまで実現されているか大変気になるところだが、これまでの都市建築とは大分趣を異にしていることは、御覧になれば分っていただけだと思う。輻輳した建物の機能に対応させた複雑な形態が、視覚的变化を楽しませるのではないかと考えながら、二つの主体の異なる建物の外壁に同じ白いタイルを全面に貼りめぐらして、素材と色彩に簡明な共通感覚を打ち出した。その意識は共同の広場からアプローチして、新たな都市環境を造成することを試みたことにも通ずるものである。

そこでこの複合した建築群のニックネームを、勝手に「甲南こもん」と名付けた。（この複合体に新しい名前がきちんとつけられることを希望しているのだが。）六甲山の南西にひろがる甲南の地につくられた共同の都市空間を意味するものである。そしてこれらに芸術家の参加を得て、豊かな空間が得られたことは嬉しい。

灘神戸生協の建物には、生協創立六十周年を記念してポर्टピアのパビリオンに飾られていた画家

の中西勝画伯の母子像のステンドグラスが、ロビー奥の壁面などにはめ込まれるし、兵庫県の建物には、彫刻家の増田正和先生の手に成る壁面構成の空間が見られる。更にこの二つの建物を囲む広場には、神戸市からの寄贈による彫刻家の柳原義達先生の彫刻「すこやか」などが置かれる。

戦後の神戸にはよい建築作品が少ないとよくいわれる。建築学会賞の受賞作品は、アメリカ総領事館とポर्टタワーの二つだけである。最近ではしかし神戸建築文化賞の作品に限らず、ポर्टピアの刺戟もあって、かなりいいものを神戸では建てないといけないという意識が高まって来ている。

戦前の神戸のレベルの高い建築の伝統は、異人館群、旧兵庫県庁舎、神戸地方裁判所の明治期からはつきりとうかがわれるが、戦後戦後に限らず、建築はひとつひとつが立派なものであることと共に、家並や街並への十分な配慮も大切である。

「甲南こもん」がその典型であるなどとおこがましくいうつもりは毛頭ないが、共同（コモン）の意識と、共感（アイデンティティ）の意識をたえず基盤としているものが、都市の中に沢山息づいてほしいものである。

地域文化、都市文化を具体的に表わす建築を暖かく見守りながら更に密度高いものがますます生み出されることを期待したい。